WORLD'S END UMBRELLA

sayuki

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ＷＯＲＬＤ'Ｓ　ＥＮＤ　ＵＭＢＲＥＬＬＡ

【Ｎコード】
Ｎ３７１９Ｌ

【作者名】
ｓａｙｕｋｉ

【あらすじ】
地を覆う大きな傘。

中央に塔が一本建ち、それが機械の塊を支えている。

当然　真下にある集落には陽が当たらず、機械の隙間から漏れる「雨」に苛まれている　。

人々は疑わない　。

それが当たり前だったから。

何て事はない　。

ただの「掟」なのだから

地を覆う傘

☆自己解釈小説です

～ＷＯＲＬＤ'Ｓ　ＥＮＤ　ＵＭＢＲＥＬＬＡ～

地を覆う大きな傘

中央に塔が一本建ち、それが機械の塊を支えている

当然　真下にある集落には陽が当たらず、機械の隙間から漏れる「雨」に苛まれている

人々は疑わない

それが当たり前だったから

何て事はない

ただの「掟」なのだから・・・

傘を伝って、私の手元の絵本へと水が滴る。

彼と目を見合わせて開く絵本には、見たことも無い空が青々と広がっていた。

・・・絵本の中に広がる青空

・・・町の皆はこの空の色を知らないのだろうか？

・・・・・人々は今日も盲目だ。

・・・空さえ見ようとしない。

彼は不意に立ち上がり、私の目を見て口を開いた。

「・・・行こう、」

手のひらで雨をつかみ、痛い位に私の手を引いた。

座っていた石段から私は腰を下ろして、傘を折りたたんだ。

・・・どこに行くのかも知らないまま。

彼の気持ちも確かめないまま、私たちは走り出した。

絡ませていた手をゆっくりと離して彼はこちらを振り向いた。

「絵本の中に見つけた空を見に行こう」

私は大きく頷いた。

「二人だけの約束だよ」

彼はそう嬉しそうにはにかんだ。

・・・雨が弾く音が聞こえる

・・・・雨が跳ね返る音が聞こえる

刹那雨さえも引き裂くようなこの感覚。

「不安」

「弱み」

「恐怖」

そんな感覚はどこかへ消えていた。

ただまっすぐに前を見て塔を目指す。

・・・私たちをずっと苦しめた傘をめざして。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3719l/

WORLD'S END UMBRELLA

2010年10月10日01時27分発行